

令和5年度 公共事業再評価調書

担当部/課名	青森市 都市整備部 道路建設課
--------	-----------------

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着手 (5年) <input type="radio"/> 長期間継続 (5年) <input type="radio"/> 再評価後 (5年) <input checked="" type="radio"/> その他 (事業着手5年)
---------	---

I 事業概要

事業種別	道路整備事業	事業方法	<input checked="" type="radio"/> 国補助 <input type="radio"/> 県補助 <input checked="" type="radio"/> 市単独																	
事業名	篠田地区融流雪溝整備事業	事業箇所	青森市篠田一丁目地内 外 ※位置図、計画図等を添付。																	
採択年度	平成 30 年度 (用地着手 平成 年度 / 工事着手 令和 3 年度)																			
終了予定年度	令和 18 年度																			
事業目的	<p>○篠田地区は、宅地化が進んだ既存市街地であり、冬期間の降積雪による道路交通機能の低下及び歩行者の通行の安全の確保が課題とされており、地域住民からの融流雪溝の整備要望が多い地区である。</p> <p>○当該事業は、融流雪溝の整備により、雪に強いまちづくりを推進し、道路交通の円滑化及び歩行者の通行の安全確保を図るものである。</p>																			
主な内容	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">区 分</th> <th>当初計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 計画延長</td> <td>13,522 m</td> <td>13,522 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 融流雪寸法</td> <td>幅 500～700 mm</td> <td>幅 500～700 mm</td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>深さ400～1100 mm</td> <td>深さ400～1100 mm</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※事業量や総事業費の増減に係る説明等を記入。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>					区 分	当初計画時	再評価時	増 減	① 計画延長	13,522 m	13,522 m	0 m	② 融流雪寸法	幅 500～700 mm	幅 500～700 mm	m	深さ400～1100 mm	深さ400～1100 mm	
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																	
① 計画延長	13,522 m	13,522 m	0 m																	
② 融流雪寸法	幅 500～700 mm	幅 500～700 mm	m																	
	深さ400～1100 mm	深さ400～1100 mm																		
事業費	(単位: 百万円)																			
		～令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	小計	令和5年度～	合計												
○事業費		41	44	59	93	237 (a)	2,495	2,732 (e)												
うち①用地費		0	0	0	0	0 (b)	0	0 (f)												
②工事費		0	0	17	83	100 (c)	2,378	2,478 (g)												
③その他		41	44	42	10	137 (d)	117	254 (h)												

II 評価指標及び項目別評価

1 事業の進捗状況

事業の進捗状況		計画全体に対する進捗
	○事業費割合	8.7 % [(a)/(e)]
	うち①用地費	0.0 % [(b)/(f)]
	②工事費	4.0 % [(c)/(g)]
	③その他	53.9 % [(d)/(h)]
説明	<p>○本事業は、平成30年度に事業着手し、令和3年度より工事をを行い、進捗率は事業費ベースで約8.7%となっている。</p> <p>○全体延長: 約13.5kmのうち、令和4年度末時点で約820mの整備を行い、令和5年度は新たに約598mの整備を行っている。</p>	
問題点 解決見込み	○特になし	
事業効果 発現状況	<p>○現在はまだ供用されていない。</p> <p>○工事着手から10年以内の一部暫定供用開始をめざし、整備を進めている。</p>	

2 社会経済情勢の変化

必要性	<p>○当該地区は、宅地化が進んだ既成の住宅地であるため、冬期間における道路交通機能及び歩行者の通行の安全を確保する必要がある。</p> <p>○冬期間における除排雪について、機械除雪による取組みだけではなく市民ニーズに応じたきめ細やかな雪処理を進める契機とするため、融流雪溝の整備が必要である。</p>
適時性	<p>○篠田地区は、冬期間の降積雪による道路交通機能及び歩行者の通行の安全の確保のため、地域住民からの融流雪溝の整備要望が多い地区である。</p> <p>○地域住民が融流雪溝管理組合を設立し、自主的に管理することに同意を得ており、融流雪溝を地域の財産と捉え組合設立に意欲的である。</p>
効率性	<p>○冬期間における雪処理について、機械除排雪による取組だけではなく除雪の際の寄せ雪等を融流雪溝にて処理することにより十分な道路幅員が確保され、冬期間における歩行者等の通行の安全が確保されることが期待できる。</p>

3 費用対効果の分析

区分	主な項目	
	費用項目(C)	① 事業費
	② 維持管理費	102 百万円
	③ 残存価値	△ 23 百万円
	④	百万円
	⑤	百万円
	総費用	2,299 百万円
便益項目(B)	① 積雪による空間の閉鎖状況の低減に伴う歩行者空間の増大	百万円
	② 調査対象地の住民の除排雪作業の人数・時間・費用の低減	3,833 百万円
	③ 除排雪による交通移動時間(車両走行時間)の短縮	百万円
	④	百万円
	⑤	百万円
	総便益	3,833 百万円
費用便益比(B/C)	費用便益比(B/C)	1.667
	補正費用便益比(B/C*α)	2.340

※地域補正係数(α): 1.404(青森地方生活圏)

※費用対効果分析の根拠等

- ・「費用分析マニュアル」(令和4年2月 国土交通省 道路局 都市局)
- ・「治水経済調査マニュアル(案)」(令和2年4月 国土交通省 水管理・国土保全局)
- ・「消流雪用水導入事業評価マニュアル(案)」(平成16年3月 国土交通省 東北地方整備局)
- ・「道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱」(令和2年3月 青森県県土整備部道路課)

4 コスト縮減や環境配慮などへの検討

コスト縮減等	<p>○融流雪溝の整備にあたり、埋戻し復旧時の路盤材・舗装材に再生材を使用し、経費の縮減を図っている。</p> <p>○送水管材は安全性を考慮した上で経済比較し、安価な材料を使用することを計画しており、経費の縮減を図る。</p>
--------	--

III 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	<p>● 継続実施 ○ 計画変更して実施 ○ 事業中止 ○ 事業休止</p>
評価理由等	<p>○融流雪溝の整備による事業効果、及び市民とともに進める雪処理との観点を総合的に勘案し、当該事業を着実に推進し、更なる事業効果の向上を図る必要がある。</p>